

# 国 語 科

## 1 国語力をつけるための家庭学習方法



### (1) 文章を読む

#### ① 読書

自分の好きなジャンルの本を見つけよう。例えば、冒険小説、ミステリー小説、エッセイ、歴史小説、などいろいろな本から興味が持てるものを選んでみよう。

#### ② 新聞を読む

コラムや一般の人の投稿欄などを毎日継続して読もう。

#### ③ その他生活の中で身近にある様々な文章を読もう。

説明書やパンフレット、広告のキャッチコピーなどもOK

### (2) 文章を書く

#### ①—1 「天声人語」の視写。 ★1

原稿用紙の使い方、段落の分け方、表現技法、構成を意識しながら、天声人語などの新聞記事や気に入った作品の一部など、丁寧に書き写す。

#### ①—2 新聞のコラムなどを読んで内容を要約する。 ★1

一冊のノートを用意して、その記事のポイントや記事が訴えた内容などを文章にまとめよう。毎日の継続が大切。

#### ①—3 新聞の記事に対する自分の考えを文章にまとめる。 ★1

例えば、その記事の意見に対しての賛成か反対かなどの立場を明らかにしながら書こう。

#### ①—4 新聞の投稿欄に投稿する。

テーマが与えられることが多いので、そのテーマに対しての自分の経験や考えを文章にして新聞社に送る。もし、その文章が新聞にのれば、嬉しいし自信もつくよ。(新聞社からのお礼もある)

#### ①—5 意見文を書く。 ★2

構成立てて、根拠を明らかにして自分の主張を書こう。

#### ② 読書→読書ノートを作って印象に残ったところや、感想を書き留めておく。 ★2

朝の読書で読んでいる本も読書ノートにまとめてみよう。

学校の図書室の貸出冊数が多い人は「読書大賞」がもらえます。

#### ③ 日記などを書く

有名な作家の多くが日記を書いていた。毎日の出来事の感想や心に残ったことなどを文章にまとめよう。

- ④ 俳句・短歌・詩などの創作をする。★3  
登下校中に空を見上げて一句、自分の気持ち（喜怒哀楽）を詩にしてみる、など、生活している中での一コマを詩や短歌、俳句で表してみよう。「鬼貫頭彰」「おーいお茶」の俳句には学校から応募します。
- ⑤ 生活の中でわからない言葉がでてきたら国語辞典で調べて使う。

### （3）読解問題集を解く

ついた学力を問題集で確かめてみよう。問題集を解くことにより、出題のパターンやよく出る問題傾向を知ることができる。

## 2 授業に関連した家庭学習方法

### （1）全ての単元共通の家庭学習

- ① 漢字練習 ★4  
1年生 →・授業で配られる小テストの漢字プリントの漢字を練習する。定期テストの範囲に入る。  
2年生 →・「新出漢字の学習」の漢字を家庭でも練習する。定期テストの範囲に入る。  
3年生 →・「漢字の反復練習」の予習・復習をする。定期テストの範囲に入る。
- ② 教科書以外の漢字練習 ★4  
漢字検定合格をめざして、漢字学習をするのもいい。目標があれば覚えることに苦を感じなくなるもの。合格すれば達成感もうまれ、次にチャレンジしたくなる！（練習プリントは図書室でもらえます！）

### （2）小説・説明文の学習時の家庭学習

- ① 意味調べ ★5  
教科書の脚注、本文中でわからない語句の意味調べをする。その時には意味だけでなく、用例（使い方）なども調べて書いておくと役に立つ。
- ② 学習している教材の音読練習  
すらすら読めるまで何回も読む。繰り返し読んでいううちに言葉を覚えることができたり、「これってどういう意味だろう？」という疑問をもつこともできる。つまり学習が深まることになる。
- ③ 授業用ノートのまとめ ★6  
授業の内容をもう一度自分なりにまとめてみよう。そして、「どう

してこれを書いたのだろうか？」などという疑問がうまれれば、次の授業で確認しておこう。

④ 学習している作者や筆者の別の作品を読む

作品は違っても何か共通の部分を見ついたり、逆に雰囲気や全く異なる作品に出会える。また、読解の練習にもなる。学習をした作家の別の作品はぜひ読もう。

⑤ 自分なりの感想を文章にしてみる ★6

授業の中で感想を書くことがある。でも、家庭学習としても感想を書いておこう。家で一度書いておくと、学校でもすらすらと書けるようになる。「読む力」も「書く力」も身につけ、一挙両得！

### (3) 古典の学習時の家庭学習

① 学習している教材の音読練習

すらすら読めるまで何回も読む。古典は言葉が難しい。何回も何回も読む必要がある。そうすることによって単語をとらえることができる。必ず家で音読しよう。

② 百人一首の暗記や古典教材の暗誦

音読と同じように、暗誦をすることにより、古文独特の読みにも慣れることができる。また言葉の美しさも味わえる。授業で暗誦テストも行われるので、頑張って名文を覚えよう。

③ 古典教材は古文や語句の意味、現代語訳をノートに写す。 ★7

これは必ずやっておこう。古語を現代語に直せないと文章の意味が理解できなくなる。

④ 意味のわからなかった言葉に一を引く

わからない言葉を絶対にほったらかしにしないことが大切。先生に言葉の意味を確認し、現代語で文章の意味が理解できるようにしよう。また、「よく使われる古語」の意味を覚えておくとよい

⑤ その作品の時代背景などを知っておく ★8

作品だけを勉強するのではなく、その時代の人々がどんな生活を送り、どんな考え方をしていたか、などを知っておくのと知らないのでは、作品の理解度が変わってくる。資料集や図書室の本、インターネットなどを利用して調べ学習をしてみよう。(その当時どんなものを食べていたのか？どんな遊びをしていたのか？なんて調べてみたら楽しいよ！)

### (4) 詩・短歌・俳句の学習時の家庭学習

① 学習したきまりはしっかり覚える

詩・短歌・俳句には、いろいろなきまりがある。形式や表現方法なども決まっている。これをしっかりと覚えよう。読み取る時も、創作する時にも知っておく必要がある。

- ② 同じ作者の違う作品を読み味わう  
資料集を使って、同じ作者の他の作品を調べてみよう。
- ③ 創作をしよう ★3  
学習をした後には、自分で作品作りをしてみよう。そのときには、辞書を片手にいろいろな言葉を使って創作しよう。創作した作品は国語科の先生に必ず鑑賞してもらおう。先生に添削してもらおうとさらに上達するはず。(作りっぱなしでは上手にならない)

### 3 テスト勉強の方法

- ① テスト範囲を確認する。
- ② ノートを整理し、見直す。
- ③ 教科書の本文を何度も読む。この時に指示語が指す内容や、文章の意味を考えながら読む。ただ読むだけでは学習にならない。
- ④ 予想問題や授業中に配られたプリントをきちんとやる。わからない所は先生に質問する。
- ⑤ 漢字などは早めに覚える。テスト1週間前にやっているようでは間に合わない。

### 4 My学ノートの活用

「国語はなかなかテストの点が上がらない」という声を聞きます。生活すべてが国語に関わっていますから、一夜漬けはできません。逆に言えば、こつこつ毎日頑張れば必ず力がつく教科です。

My学ノートを活用して、毎日学習しましょう。例えば・・・

- ★1 「天声人語」など新聞記事を写し、要約・感想を書く。
- ★2 読んだ作品・文章についての自分の感想を書く。
- ★3 俳句・詩・短歌を創作して書く。
- ★4 新出漢字の練習をする。
- ★5 意味調べをする。
- ★6 授業の内容をもう一度自分なりにまとめてみる。
- ★7 古典の原文を写す。
- ★8 教科書に出てくる作品の作者について調べ、まとめる。

※ それぞれ、★マークのついている項目に詳しいやり方が載っています。自分なりに工夫して学習しましょう。